

<訓練振り返り>

今日の避難訓練に至るまでに、4月の事前周知型訓練で避難経路の確認を行い、5月には1年生を対象にマイタイムラインの作成を、10月には2年生を対象にサバイバル飯炊き、その後シェイクアウト訓練も行った。実践的な訓練ということを考えて計画は最低限で立てた。その結果、生徒の安否確認が取れなかったり、シャッターが下がったりと様々なイレギュラーが発生するなど、より実践的な訓練となった。

<協議内容>

・逃げ遅れた2名の生徒の状況説明があれば…

⇒詳しくは分からないがシャッターがおりたため、遠回りをして避難したのではないか。

⇒担任に確認すると、体育の授業後の更衣中に訓練が実施されて逃げ遅れ、防火シャッターも閉まっていたため、閉じ込められたと思い、教室に待機したとのこと。

・お世辞抜きで訓練の真剣な空気感が伝わった。大きな要因として担当者の熱心な姿勢が見られたことだと思う。良い訓練を見学させてもらった。改善点ということではないが、今回の訓練をベースとして、PDCAサイクルを重ねて良い訓練にしていただければと思う。リアリティのある訓練とは想定が大切だと思う。前提事項としてどのような災害を想定しているのか共通認識を持たせることでよりリアリティのある訓練になると思う。

・生徒たちは一生懸命真剣に取り組んでいた。階段も一段ずつ降りていたので指導も行き届いていると感じた。もう一つリアリティを出すとしたら、職員もヘルメットや帽子など着用して避難をすると良いのではと感じる。また、ヘルメットなどは整備をする必要もあるのかなと思う。

⇒球磨支援学校の避難訓練でもヘルメットなどの整備については話題が上がった。費用などの関係もあるので時間はかかると思う。

・高校生なのでルーズになるイメージだったが、しっかりと真剣に取り組んでいるように見えた。命を守るという視点でみると、スリッパは逃げにくいのではと思う。避難時はスリッパでなく靴と指導をしているので、検討していければ。職員について、生徒が安否不明の時の動きが、指示系統などが見られていなかったのも、そのような状況を想定して指示の徹底を行えると良いのでは。

・生徒が所在不明だったとき、生徒が何故いなかったのかをしっかりと聞き出して、今度同じ状況だったときを想定して行動を促せるよう対話をしていただきたい。職員の動きについてもどこに探しに行くかなど、役割分担を行う必要があると感じた。

・防火扉が降りた訓練は初めて見たので大変印象的だった。防火扉や消火器などの説明についての学習や実践があれば教えて欲しい。

⇒これまで全くしていないので改善の必要があると思う。今後どこかのタイミングで実施していく必要を感じる。

・防火扉は本当に想定外で職員も戸惑った出来事であった。結果的に生徒の判断で避難が進んだ点があったので、建築物の構造の周知、熟知が大切だと思う。職員にとっても良い経験になったのではと感じる。

・球磨中央高校での出来事、防火扉は開く部分がある構造だと思うが、防火シャッターについてはどうなっているか。マスコミ対応の職員について、結構マスコミは訓練の邪魔になるので対応する職員を決めておく方が良いと思う。

⇒防火シャッターにも避難口はある。

・生徒は皆真剣に取り組んでいた。避難完了までの時間はどれくらいを想定していたか。

⇒時間については、球磨支援・球磨中央の訓練をみて確実に安全に避難することを重視しておりあまり意識をしないようにしていた。避難場所についても、周辺に老朽化した建築物等があることを考慮してハンドボールコートであったものをグラウンドに変更した。時間については5分程度を想定している。

<熊本県教育委員会まとめ>

消防の協力のもと、実践的な訓練を実施していた。授業担当者は適切な判断の元、避難させる必要がある訓練であった。これまでに経験した災害や人吉球磨地域を取り巻く環境を考慮するとこのような訓練の実施は重要であると感じる。今回の訓練で起こった事象について検証し今後の訓練に繋げてもらいたい。訓練にも流行り廃りがあると思うが、物事を良くしていこうという姿勢を持って訓練を続けて行って欲しい。

「人間は自然よりも少し強い」という言葉があるが、災害からともに助け合い復旧復興に尽力するということがこれまでも繰り返されてきた。そういった人々の姿からこの言葉が出てきたのではないかと思う。これからの時代を生き抜く生徒たちを育てる立場として、これからもこのような訓練・取り組みを大切にしたい。